4/17(金) まぼろし 倫理号です。4/18～19と出張です。今日お送りします
すごいですね、事実を事実として受け止めない器量が心を曇らせ、本当に
改善すべき点が見えなかったり 2015.4.18～4.24
見誤ったりしてしまうから…と 奥が深いですね。
「これで良いのか」と考えてみたいものです。
幸せ運ぶ 阿部

四月のテーマ　これがよい

「これがよい」と「これでよいのか」

え・古屋智子

漫画『天才バカボン』は赤塚不二夫氏の代表作です。バカボンのパパの決め台詞「これでいいのだ」は、誰もがご存知でしょう。このパパのキャラクターは、自身の父親がモデルだったと、赤塚氏は著書の中で語っています。

赤塚氏の父・藤七氏は、新潟県生まれ。満州に渡り、警察官の道を選びました。特務警察官として、現地のゲリラと最前線で渡り合う、命をかけた仕事でした。

少年時代の赤塚氏にとって、父は眼光鋭く、怖いイメージでした。その一方で、正義感が強く、困っている人がいれば「敵も味方も同じ人間だ」と、分け隔てなく助けるような人でもありました。

その後、満州を転々とし、終戦後にはシベリアに抑留され、過酷な人生を生き抜いてきた父を、『これでいいのだ』といえるような生き方を目指していた」と氏は述懐します。そして、その人生観は、息子に受け継がれました。赤塚氏自身、波乱万丈の人生を楽しんで生涯を終えたことは、記憶にも新しいところです。

赤塚氏に多大な影響を受けたタレントのタモリ氏は、葬儀の弔辞でこう述べました。

「あなたの考えはすべての出来事、存在をあるがままに前向きに肯定し、受け入れることです。（中略）その時、その場が異様に明るく感じられます。この考えをあなたは見事に一言で言い表しています。すなわち、『これでいいのだ』と」

すべての出来事を前向きに肯定し、受け入れる――。「これでいいのだ」という言葉をより積極的な姿勢の言葉にすると、「これがよい」となるのではないでしょうか。「これがよい」は「大肯定」とも言い換えられましょう。

大肯定は、その後の大改善につながります。「まあ、いいか」「しようがない」という中途半端な肯定では、中途半端な改善しかできません。事実を事実として受け止めない器量が心を曇らせ、本当に改善すべき点が見えなかったり、見誤ったりしてしまうからです。

また、「これではダメだ」と、欠点や不備を見つけての改善は、対処療法にしかならないでしょう。

失敗や災いがたとえ理不尽でも、大肯定をした上で、〈原因があってこういう結果になったのだ〉と原因理由を追及していく時、初めて本当の改善ができるのです。

ある企業では、チャレンジして失敗した社員を叱ったり、損失に対しての減俸は行ないません。その代わり、失敗を糧に改善策を出した社員には、表彰と賞金を出しています。その蓄積により業績を伸ばし、業界でも注目される企業となっています。

うまくいかないことを肯定的に受け止め、その原因を探り、改善を加えて次の成功へとつなげれば、その過程そのものが財産となるでしょう。現状にとどまらない改善改革の名人は、実は大肯定する名人でもあります。

「これがよい」と大肯定をして、しかし「これでよいのか」と改善改良を求めて、より良い仕事を創造していきたいものです。

参考資料　『これでいいのだ 赤塚不二雄自叙伝』文春文庫